



黒瀬 珂瀾 選

選外の歌をふたたび敲く夜に喝を入れるか一つ
春雷 群馬県 真庭 義夫

【評】「推敲」は、中国の詩人が詩中で「門を推す」か「敲く」かを悩んだという故事に由来。それを踏まえて、歌の改作に挑む景を描いた一首。雷鳴の瞬間、妙案が浮かんだのかも。

蠱屑とふ漢字を思ひ浮かべつつ吾子とあさりのみそ汁を飲む 広島市 熊谷 純

【評】「蠱屑」の字には貝が四つもいる。子どもとの食事中、貝殻を見てそれに気づき、やはり自分もわが子を蠱屑しているなと思っただけでしょう。親の欲目は当然のことです。

切手はいらない 北本市 漆野 香

【評】かすかなつぶやきも五月の爽やかな風に乗れば君にまで届くかも。小さな願いが季節感のなかに美しく描かれました。

噴霧器をひろがり出づる除草液毒には見えぬ虹の生まるる 福島県 黒沢 正行

母の日は母の手打ちの蕎麦懐ふ暈りの帰省よろこびし母 さいたま市 小平 英治

八重に咲く大輪椿つらつらに今朝なりわいに励むべきかな 横須賀市 江沢 暁彦

墓訪へば隣の墓の消えてをり事情知らねど遠く海見ゆ 逗子市 鈴木喜久代

鍵盤に打ち込む君の四分休符その一拍に髪を搔きあげ 立川市 安藤 麗

梅雨寒きリストランテの食前のジンジャーエールを溶けゆく灯り 小諸市 藤 雪陽

熱々のモルタルに描く停止線ニツカポツカに明けの陽は照る 名古屋市 岩田 充弘

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから 次回は22日(月)掲載 右の影絵はさくらんぼ